



培う技術と人づくり。

創業20年。

尊重の心をもって。 地域、世代、技術を守る企業へ。



カメラ、望遠鏡、測定器、医療器具などに使用する光学レンズの加工を手掛ける「有限会社さとう技研」が美郷町に創業し、今年20年を迎えた。

小さな一枚にも、多くの工程を経て作られるレンズの世界。同社では、こと「研磨」に特化した加工を行ってきたが、長年続いてきた背景には、創業当初から変わらず大事にしている「尊重」の心があった。創業者から代表を受け継ぎ5年になる、佐藤純氏に伺う。



代表取締役
佐藤 純 Sato Jun
〒019-1302
仙北郡美郷町金沢向小屋128-2
TEL.0182-37-3120

◎設立/2002年4月10日
◎資本金/400万円
◎従業員数/20名
◎業務内容/光学レンズ加工
・切削加工・研磨加工・芯取加工
・非球面切削加工・非球面研磨加工

地域資源の尊重

同社が大事にしていることの一つに「地域資源」がある。通常、研磨には研磨剤と大量の水を使用するが、ここでは「工業排水ゼロ」。使用した研磨剤はすべて蒸発させ、残ったものは産業廃棄物として処理し、排水は一切流出させないのだ。

さらに県の産業技術センター、地元機械メーカー、東北大学との共同で再生研磨剤の製造装置も開発し活用している。工場内では手洗いの水でさえもバケツに汲んだものを使用するという徹底ぶりだ。

美郷町は名水百選にも選定された水の豊かな町。工場周辺にも田園風景が広がるなか、地域と共存していくための真摯な姿勢が伺える。

世代間の尊重

同じく重きを置くのが「世代間の尊重」だ。現在、スタッフは24名。現場担当の最年長は66歳、最年少は27歳と幅広いが、熟練の技術を大事にしながらも、若い世代の考え方も重んじることを続けている。

「これからはNC加工やAIの時代と言われていますが、一番は人の手だと信じています。一足飛びにデジタル化するのではなく、アナログ的なことをわかっている職人がいるうえで、若い世代がデジタルを取り入れていくことが大事だと考えています」と佐藤氏。ベテランの技術や精神を受け継ぐ意味でも定年制は設けておらず、創業者であり現会長の佐藤六広氏も70代にして現役だ。

職人技術の尊重

そして、会長をはじめとする熟練の技術者と経営者である佐藤氏が、互いに尊重しあう姿も印象的だ。

「他社がやりたがらないような難しい加工も『うちの職人ならきっとやってくれるだろう』という思いがあります」と佐藤氏。



創業当初から「資源、人、工具を大事に」をモットーにしています。

社長を務める佐藤純氏(左)と創業者で会長の佐藤六広氏(右)。



年々品質の要求が高くなりますが、基本的に忠実に仕上げることを意識しています。



センターなどの支援を活用し段階的に設備の拡大を進めてきた。大量生産はせず、良いものを必要数作ることを大切にしている。

技術への絶大な信頼があるからこそ、思い切った采配ができる。一方で、会長は、佐藤氏に経営を委ね、自身は職人に徹することで技術を最大限に発揮する。この二人のタッグが企業を成長させてきたのだ。

創業から20年、営業面では人と人とが顔を合わせ芯の通った商売をすることを大事にしてきたが、人材確保が難しい時代。これまであえて設けてこなかったホームページの作成を検討するなど、変化をしながら新たな形を模索している。